

決算の概要

【連結】

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
27年3月期第2四半期	10,394(13.2%)	1,094(756.7%)	876(- %)	673(3,451.3%)
26年3月期第2四半期	9,180(8.7%)	127(- %)	81(- %)	18(- %)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

【個別】

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
27年3月期第2四半期	9,369(12.3%)	1,011(617.6%)	829(- %)	668(1,124.4%)
26年3月期第2四半期	8,342(10.3%)	140(- %)	64(- %)	54(- %)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

< 主要諸元 >

項 目	27年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期
原油 C I F 価 格 (ドル/バーレル)	109.5	107.7
為 替 レ ー ト (円/ドル)	103	99
原子力設備利用率 (%)	0.0	0.0

販売電力量

(単位：百万kWh)

	特定規模需要以外の需要			特定規模 需 要	合 計
	電 灯	電 力	計		
27年3月期 第2四半期	10,463 (3.3%)	1,712 (1.8%)	12,175 (3.1%)	24,132 (0.0%)	36,307 (1.1%)
26年3月期 第2四半期	10,819 (1.4%)	1,743 (6.2%)	12,562 (2.1%)	24,140 (1.0%)	36,702 (1.4%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

平成 2 6 年度業績予想

平成 2 7 年 3 月期通期の利益予想については、原子力発電所の再稼働時期など供給力の見通しが不透明であることに加え、経営効率化の深掘りの検討を継続的に進めているところであり、費用を合理的に算定することが困難な状況であったため、これまで未定としておりましたが、今般、現時点における需給状況および経営効率化の検討状況などを踏まえ、業績予想を算定しましたのでお知らせいたします。

連結業績予想における売上高は、当社において、料金改定の影響や燃料費調整額の増加などにより、2 兆 1,800 億円程度（前年度比 6.9%増）となる見通しです。なお、前回発表予想と比較し、販売電力量の減少などにより、下方修正しております。

経常利益は、安定供給の維持に必要な修繕費の増加などがあるものの、昨年 9 月の料金値上げの影響が通期に及ぶことに加え、経費全般にわたる徹底した効率化の継続的な取り組みなどにより、880 億円程度となる見通しです。

当期純利益については、680 億円程度となる見通しです。

<平成 2 7 年 3 月期（平成 2 6 年度）通期業績予想>

【連 結】

（単位：億円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想	22,000	-	-	-
今 回 発 表 予 想	21,800	1,320	880	680
（参考）平成 2 6 年 3 月期	20,388	856	390	343

【個 別】

（単位：億円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想	20,100	-	-	-
今 回 発 表 予 想	19,700	1,100	700	570
（参考）平成 2 6 年 3 月期	18,331	840	386	360

<主要諸元>

項 目	今 回
販 売 電 力 量（億 k W h）	775 程度
原 油 C I F 価 格（ドル/バーレル）	107 程度
為 替 レ ー ト（円/ドル）	106 程度
原子力設備利用率（%）	0.0

配 当

当社は、配当につきましては、安定的な配当を行うことを基本に、当年度の業績や中長期的な収支見通しなどを総合的に勘案し決定することを基本的な方針としております。

当社の平成26年度の間配当につきましては、上記の基本的な方針および東日本大震災等により毀損した財務体質の回復の状況などを総合的に勘案し、平成25年度の期末配当金と同じく、1株当たり5円とさせていただきます。

なお、平成26年度の期末配当予想につきましては、今後の需給状況等を踏まえた通期の業績、原子力発電所の再稼働を巡る状況等を踏まえた中長期的な収支見通しおよび財務体質の今後の回復状況等を慎重に見極める必要があることから、引き続き未定としております。

以 上